「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に係る研修会を実施しました。

新たな学校教育準備プログラム推進事業
通信　No.2

平成 30 年 8 月 27 日
教育指導課教育課程係

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善普及支援事業」について

仙台市教育委員会では，平成２８年度から，市内小・中学校の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するため，各行政区に１～２校の「拠点校」を設けています。拠点校は，２か年にわたり，研究授業の公開や実践報告等を通じて自校の成果や知見を他校へ提供するなど，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進役となるような取組を行っています。

〔平成２８～２９年度指定の拠点校〕

【小学校】　・広瀬小（青葉区）・六郷小（若林区）・高砂小（宮城野区）
【中学校】　・五橋中（青葉区）・八木山中（太白区）・加茂中（泉区）・南光台中（泉区）

〔平成３０～３１年度指定の拠点校〕

【小学校】　・北六番丁小（青葉区）・七北田小（泉区）・榴岡小（宮城野区）
【中学校】　・沖野中（若林区）・人来田中（太白区）

今後，拠点校での研修会や研究授業の様子等，本事業に関する情報を，昨年同様，各校へＣ４ｔｈや教育センターＨＰにてお知らせします。新学習指導要領の全面実施に向けて，各校の取組の一助にしていただきたいと思います。

『学ぶ子供の視点に立った授業づくり ～どこに気を付け，どんな授業を創っていけばよいのか～』

上智大学　総合人間科学部教育学科　教授　奈須　正裕　氏

平成３０年８月２３日（木），仙台市立榴岡小学校〈猪股亮文 校長先生〉を会場に，「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に係る研修会が行われ，「学ぶ子供の視点に立った授業づくり」と題して，上智大学，奈須正裕教授から講話をいただきました。

冒頭，猪股校長先生から，榴岡小の経営についての説明がありました。榴岡小では新学習指導要領の三つの柱を念頭に，まず全職員で分析をした榴岡小の児童の実態を踏まえ，学校教育目標を資質・能力の面から捉え直し，学校重点目標及び学年重点目標として明示したうえで，各学年において，目指す資質・能力を育むための「学び」を具現することに腐心しており，今回は，教育心理学研究者であり，新学習指導要領改訂の理念も熟知する奈須先生から，改めて，「学習者の視点に立った授業づくりの原理」について，伺いたいという思いから，講師としてお招きするに至ったとのお話がありました。

奈須先生からは，**「いい授業は，するものではない。つくるものである。」「子供がその授業が待ち遠しいと思える授業ができるか。そこが主体的な学びを生む授業につながる。」「教材単元と経験単元には違いがある。」「指導案は，まずは手書きで２，３案書いてみる。」「確かなものは目の前の子供と，先生方の教育信条である。」「教科書と対話をして，教材を自分のものにすること。子供の事実をみんなで語り合って授業を磨いていく。」**等々，授業づくりの根本，授業を改善するための視点に関わる内容を，様々な具体例とともにお話しいただきました。奈須先生の講話の概要は次のとおりです。

○　改めて，いい授業とは？「単元」はどうする？

・子供にとって意味のある楽しい「活動」を通して，教師から見ても価値のある「内容」を実現することが基本
・授業づくりとは，「活動」と「内容」の間にうまく折り合いをつけること
・「まとまり」のつくりかた（「活動」と「内容」の関連のさせ方）によって，単元＝授業も大きく変わってくる
〈単元教材〉（国語，算数・数学，理科等）
系統的に配列された教材の一区分であり，例えば教科書の第１章，第２章というまとまり
（内容のまとまりが単元）
→内容が決まっているため，導入の工夫による子供への意欲付けが大切

〈経験単元〉（生活科，総合的な学習の時間等）
児童の当面している問題を中心にして，その解決に必要な価値ある学習活動のまとまり
（活動のまとまりが単元）
→活動が学びに結び付いているか，子供の見取りと学習材の研究が大切
・単元に入る前の「児童の実態」と，単元を終えたときに「付けたい力」（評価規準）を明らかにしておくこと

○　脱・ドリルへの思い切り，精緻化された知識を生み出す学び
・「深い意味的理解＝納得」にまで学びが達していないから「反復練習」が必要になる
・「反復」でA問題は解けてもB問題やＰＩＳＡは解けない
・指導内容を所与のものと考えず，そこに至るプロセスを学習課題の中心に据えることが大切
・浅い学び：個々バラバラの学び，自分と無関係な学び
・深い学び：知識が相互に，また自分と意味が関連付く学び
・精緻化：既有の知識と，新たに学んだ知識が関連付くこと
→深い学び＝精緻化された知識を生み出す学び
・学習内容に関わって，子供が何等の知識も経験も持ち合わせていないものはない！と考える。
・「教える」とは，子供が既に所有しているインフォーマルな知識を，教科の見方・考え方に沿ったフォーマルな知識へと洗練させること
・小学校はゼロからのスタートではない。幼稚園・保育園の経験を教室に持ち込む

○　オーセンティック（真正な，本物の）学習
・現実の社会に存在する本物の実践に可能な限り近付けて，学びをデザインする
→学ばれた知識も本物になる
・現実の世界と数理的処理の間の「変換」過程を重視する
※「６０人乗りのバスがあります。１４０人を運ぶには何台のバスが必要ですか？」に
「２と１／３台」と答える子供…日々暮らしている状況と勉強の世界は別と考えている。
→手続きではなく，意味の理解こそが学力
・様々に異なる状況・文脈で学んだことを時々整理してやると，子供たちは学んだことを「道具化」して，先々自在に使えるようになる。

宮城野区を中心に，１００名を超える方々に御参加いただきました。質疑を含め約２時間，とても充実した時間となりました。

★　受講者の声　★

・　「教科書を読解する。」「活動と内容の別離」「単元について」など，改めて授業づくりの楽しさに気付かされました。また，「ドリルをやめる」という話は，教師としては少し怖い選択かもしれませんが，すごく面白そうだと感じました。これまで「深い学び」をすごく難しいことだと思っていましたが，具体例をたくさん聴くことができ自分の中のハードルが下がりました。
・　授業づくりの考え方がよく分かりました。教科によって単元づくりの手順が違うということも分かり，「活動」と「内容」の関わりについて考えながら授業づくりをしていきたいと思いました。
・　『目からうろこ』の内容ばかりでした。恥ずかしながら教材単元と経験単元の原理についても，教科の中で「活動」と「内容」を分離することについても無自覚でした。認識をしっかり持って，「活動」と「内容」に折り合いをつける授業づくりを模索していきたいです。
・　生徒が主体的に学ぶために，「どうして？」と自身で考えられるような授業を実践していきたいと改めて思いました。
・　今までの授業に対する考え方が良い意味で全て覆された気分になりました。何にこだわりを持って授業をするのか，改めて考え直していこうと思います。